

音訳技術研修会

音訳グループ旭川本の会

〒070-0044 北海道旭川市常磐公園 旭川市中央図書館内

助成事業の概要

実施目的：利用者からの録音図書の要望は、現代小説・時代小説・エッセイ・評論など幅広い分野に及びます。また、新聞や月刊雑誌などの音訳は正確性に加え、即時性も求められます。

更に現在は各団体で作製する録音図書はネットワークを通じ、全国の視覚障がい者の方々に利用されており、より質の高い音訳技術が求められています。

当会も普段から会員相互の勉強会を定期的に行っておりますが、専門講師の研修を受け、個々の音訳技術の向上と新会員の育成のための指導技術の習得のため、音訳技術研修会を実施しました。

実施日：7月14日（金）1講座（参加11名）

15日（土）2講座（参加11名・12名）
（受講する会員を3グループに分けて、一講座3時間で行いました。）

講師：福井慎二氏（NHK 札幌放送局アナウンサー）

内容：「利用者が内容を理解しやすい音訳を目指して」

- ・音声表現のポイント
- ・イントネーション
- ・内容を正確に伝えるための＜間＞
- ・句読点を考える

事業の成果

●14日の講座は主に新聞の音訳（ニュース記事・読者の投稿・生活情報記事など）を担当する会員を集め、情報の伝え方を重点的にご指導いただき

ました。

＜参加者の声＞

・今まで新聞記事の読みの指導を受ける機会がなかったので大変勉強になりました。内容が聴く人にしっかり伝わるよう、今回の講習を活かしていきたいです。

・「もっと緩急をつけると良い」というアドバイスが一番心に残っています。今後の音訳のたびに思い出しながら、取り組んでいきたいと思えます。

●15日の2講座はエッセイを題材に各会員の経験年数に応じた指導をしていただきました。

＜参加者の声＞

・文章の切り方、緩急の付け方、他の方へのアドバイスなど大変勉強になりました。

・「プロデューサーになった気分で、映像や場面を展開するように」というアドバイスは大変印象に残りました。

・個々の良さをまず認め、次のステップへ進むための具体的な指導が、大変分かりやすかったです。

●コロナ禍で3年ほど講習会が出来ずにおりましたが、この度「日社済 社会福祉助成事業 音訳技術研修会」を開くことができ、各会員の音訳活動への意識が大変高まりました。

今後は、講師から指摘された自分の課題にしっかりと向き合い、音訳技術の向上を目指して全員で努力していきたいと思えます。

また、新人会員への指導も試行錯誤しながら行っておりましたが今回、講師の的確な指導法を目の当たりにし、得るものが沢山ありました。

当会は2年毎に新人会員を募集し、研修を行っておりますので、今回得られたものを次回の新人研修に大いに活かしていきたいと思っております。

成果の広報・公表

●今回の研修会実施については、旭川市中央図書館のホームページ・Facebook に掲載されています。

<Facebook より>

[「音訳グループ旭川本の会」の研修会がありました！]

7月14日(金)と15日(土)日ごろ中央図書館で視覚障がい者サービスに関しボランティア活動をしている「音訳グループ旭川本の会」が、会員の技術向上を目的として「公益財団法人 日本社会福祉弘済会」支援による「音訳技術講習会」を実施しました。

講師として NHK 札幌放送局アナウンサーの福井慎二氏をお迎えし、35名の会員が受講しました。

研修では、用意されたテキストを実際に一人ひとりが読み上げ、アクセントやイントネーションなどについて丁寧にアドバイスをいただきました。

会員の方からは、音訳技術の向上に大変役立った、これからの音訳活動に活かしていきたいとの声が聞かれました。

●毎年11月3日の文化の日に中央図書館にて「図書館まつり」が開催され、当会も活動拠点であるボランティア室を一般開放し、日ごろの活動を来場者に紹介しております。

今年は今回の研修会の様子を写真を交えて是非紹介したいと思います

今後の展開

●今後は講師の先生から指摘されたそれぞれの課題を会員同志で共有することによって、個々のレベルアップが計られているかを確認し合いながら活動していきたいと思っております。

又、今回の研修会で「人の読みを聴くことの大切さ」を改めて学びました。

研修会の録音を改めて皆で聴きながらディスカッションすることによって、新たな課題の発見につながり会員同志、大いに刺激になることと思っております。

今回の研修会を一度きりの勉強の機会と捉えるのではなく、今後の会員同志の勉強会につなげていきたいと思っております。

●録音図書もどんどんデジタル化され、AIの普及などによって、視覚障がい者の方の読書の幅が広がっているのは大変素晴らしいことです。

しかし、「人の声」による録音図書もまだまだ多くの利用者から求められています。

そして、その求められる録音図書のレベルは当然高いものになります。

今回の研修会で得たものを最大限に活かし、利用者に寄り添った、利用者のための質の高い録音図書を目指して、会員一同切磋琢磨していきたいと思っております。